

平成28年8月8日

豊田市議会議長 近藤光良様

産業建設委員会

委員長 板垣清志



委員派遣実施報告書

本委員会は、次のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 日 程 平成28年7月20日（水）～22日（金）
- 2 派 遣 先 20日（水）…NPO法人 尾道空き家再生プロジェクト(広島県尾道市)／
及び内容 「空き家・空き店舗を活用したまちづくり」
21日（木）…広島県広島市／
「外国人観光客の誘致と受入の推進」
22日（金）…兵庫県姫路市／
「姫路駅北駅前広場の整備と管理活用」
- 3 派遣委員 委員長 板垣 清志
副委員長 古木 吉昭
委 員 杉浦 弘高 鈴木 章 牛田 朝見
北川 敏崇 大石 智里 鈴木 孝英
- 4 報 告 書 視察報告書のとおり
- 5 そ の 他 随 行 / 伊藤 勝介、塩谷 久美子

視察報告書【1】

委員会名	産業建設委員会	委員名	板垣 清志
視察日時	平成28年7月20日(水) 午後1時45分～午後3時30分		
視察先・概要	NPO 法人 尾道空き家再生プロジェクト 広島県 尾道市 人口：141,878人 (H28.3.31現在) 面積：285.09 km ²		
視察内容	【 空き家・空き店舗を活用したまちづくり 】		
選定理由	NPO 法人尾道空き家再生プロジェクトは、空き家が増加した山手地区において空き家と観光・アート・コミュニティ等を組合せ、観光客の宿泊施設、美術・文学を学ぶ若者の寮やアトリエ、ギャラリー、世代間の交流やイベント企画など新しいコミュニティづくりの支援等を行っている。住宅以外での空き家の活用も積極的に行い、空き家に新たな利用者呼び込むことで荒廃を防ぐとともに景観を保全し、地域の活性化につなげている。また、尾道市と連携し、空き家バンクも展開している。この取組は、今後の本市において参考になると判断したため。		
豊田市の現状と課題	本市は、まちなかの空き家・空き店舗などの遊休資産の活用によるエリアや通りの魅力向上、まちづくりを担う人材や新たなビジネスを創業する人材の育成・発掘と誘致、公共空間を活用した賑わいの創出・回遊性の向上などを目的に豊田市リノベーションまちづくり事業を展開している。平成27年に始まった事業なので、本市の空き家・空き店舗活用推進のため、先進的な取組を調査、研究する必要がある。		
視察概要	<p>1 空き家再生プロジェクトの概要</p> <p>NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト 設立：2007年5月 目的：空き家の再生や空き家バンクの活性化事業などを通して、古い町並みや景観の保全、移住者・定住者の促進による町の活性化、新たな文化・ネットワーク・コミュニティの構築。</p> <p>1) 町並み保全のための空き家再生事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家再生事業 ・現地でチャリティ蚤の市 ・尾道建築塾 <p>2) 定住促進とコミュニティの確立を図る事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾道空き家談義 ・空き家バンク(2009年より尾道市からの受託事業) <p>3) 新たな文化とネットワークの構築事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾道まちづくり発表会 <p>2 空き家等を活用した商業・サービス業創出の取組</p> <p>1) 簡易宿泊施設への再生と運営(2施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなごのねどこ：昔の家のつくりを活かし、明治時代の呉服屋を、カフェとゲストハウスに再生。 ・みはらし亭：茶園文化の建築物を活かし、カフェとゲスト 		

	<p>ハウスに再生</p> <p>3取組の成果と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> • 登録会員は、現在173人 • 空き家バンク登録者は、NPO団体の受託事業となってから、56件から151件に増加。 • 移住希望者と空き家保有者のマッチング・住居の再生は、現在までに100件以上の実績あり。 • 現在、毎月15～20件の問合せと移住相談がある。
<p>評価とその理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 行政単独ではできなかった土曜日・日曜日の対応や営業時間の拡大、リフォーム支援等のサポート、積極的なPR等、民間のノウハウをいかしたことにより、空き家バンクのマッチングに大きな成果をだしている点は評価できる。 • このNPO団体は、リーダーシップがとれ、しっかりと活動していく人が、周りを引っ張っていき成功している点は評価できる。
<p>本市に反映できること</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の文化を体験するために長期滞在する国内外からの来客者を対象とした、あなごのねどこやみはらし亭のようなゲストハウスの運営は参考となる。 • 移住希望者や移住が決まり住居が再生中でまだ住めない人のための仮暮らしの体験ハウスは、借りる人も多くあり参考となる。
<p>その他 (意見・課題など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 尾道駅から2キロメートルの範囲に500戸ほどの空き家・空き店舗が存在する。尾道に空き家等が増える理由は、坂道が多く、車も入れない道があり、高齢者には住みにくいということ。若い人たちは珍しいので移住してくるが、定住には繋がらないかもしれない。地域の特徴をよく見極めて進めていく必要がある。 • ゲストハウスについては、尾道であるから来客者があるのであって、そのまま本市に取り入れても来客者があるわけではないので、ニーズを把握して、本市としてどのように展開をしていくのかを検討する必要がある。 • 住む予定が無いにも関わらず、空き家バンクに登録をしない理由を所有者に聞き取りをするという取組が必要である。 • 施策を遂行するために、一生懸命になれる人材の発掘・確保が課題と思われる。



視察報告書【2】

委員会名	産業建設委員会	委員名	板垣 清志																		
視察日時	平成28年7月21日(木) 午前10時00分 ~ 午前11時30分																				
視察先・概要	広島県 広島市 人口:1,190,877人(H28.3.31現在) 面積:906.53 km ²																				
視察内容	【 外国人観光客の誘致と受入の推進 】																				
選定理由	<p>広島市は、「住んでよく、訪ねてよい、千客万来の都市の実現」を目指し、ひろしまビジターズ・インダストリー戦略行動計画に掲げたアクションプログラムや新たなアクションプログラムを企画・実施している。また、平和記念資料館を始め多彩な観光資源を活用し、外国人観光客の誘致を進めるとともに、受入環境づくりの取組を推進している。この取組は、今後の本市において参考になると判断したため。</p>																				
豊田市の現状と課題	<p>本市は、豊田市観光交流基本計画のもと、とよた観光交流実践計画(2014-2017)を策定し、実践計画の取組によって実現する4年後の姿『「とよたならではの」に出会えるまち』を設定し、ターゲットを絞り、戦略性や具体性をもって取り組んでいる。ラグビーワールドカップの開催、東京オリンピック・パラリンピックを見据え、外国人誘致・受入に積極的に取り組んでいくにあたり、先進的な自治体の取組を調査・研究する必要がある。</p>																				
視察概要	<p>1ひろしまビジターズ・インダストリー戦略行動計画の概要 平成15年3月策定、平成23年3月改訂 計画期間：平成23年度～平成32年度</p> <p>1) 推進方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来訪者の視点で都市機能を充実 ・市民が主役の「観光・交流」の促進 ・既存産業の「広島産業」化 ・担い手の意識改革と連携の強化 ・地域資源の「発掘」「創造」及びプロモーション ・来訪者の「知りたい」視点で情報発信 <p>2) 目標数値</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>目標数値(H32)</th> <th>参考(H21)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入込観光客数を増やす</td> <td>1,500万人</td> <td>1,004万8千人</td> </tr> <tr> <td>外国人観光客数を増やす</td> <td>100万人</td> <td>30万4千人</td> </tr> <tr> <td>観光消費額を増やす</td> <td>2,000億円</td> <td>1,330億円</td> </tr> <tr> <td>宿泊客数を増やす</td> <td>500万人</td> <td>345万4千人</td> </tr> <tr> <td>観光ボランティアの登録者数を増やす</td> <td>1,000人</td> <td>500人</td> </tr> </tbody> </table> <p>3) 施策の4つの柱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光プログラムの開発と充実 ・来広者への「おもてなし」 ・MICEの推進 ・近隣市町との連携による広島情報の発信 			指標	目標数値(H32)	参考(H21)	入込観光客数を増やす	1,500万人	1,004万8千人	外国人観光客数を増やす	100万人	30万4千人	観光消費額を増やす	2,000億円	1,330億円	宿泊客数を増やす	500万人	345万4千人	観光ボランティアの登録者数を増やす	1,000人	500人
指標	目標数値(H32)	参考(H21)																			
入込観光客数を増やす	1,500万人	1,004万8千人																			
外国人観光客数を増やす	100万人	30万4千人																			
観光消費額を増やす	2,000億円	1,330億円																			
宿泊客数を増やす	500万人	345万4千人																			
観光ボランティアの登録者数を増やす	1,000人	500人																			

	<p>2外国人観光客の誘致と受入環境づくりの取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) フリーWi-Fiサービスの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・Hiroshima Free Wi-Fiの面的拡大 2) 観光案内機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客向け観光ボランティアガイド活動 3) 外国人観光客向け街角観光案内所 <ul style="list-style-type: none"> ・「トラベルパル・インターナショナル」設置(H24.12月～) <p>3取組の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年連続で来訪客数が増加し、平成27年度は、100万人を突破した。 ・Hiroshima Free Wi-Fiは77拠点、Liteは796拠点に拡大 ・外国人観光客向け観光ボランティアガイドの登録人数372人 ・街角観光案内所の認定施設は50カ所 <p>4今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町・県との更なる広域連携
<p>評価とその理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広島に来る外国人観光客の国別の需要の傾向などの調査・分析、宿泊率、ICTを利用した動線調査・分析がしっかりできている点は評価できる。 ・外国人ニーズが非常に高いフリーWi-Fiを民間通信事業者と連携して、公共施設を中心に飲食店やホテル、物販店などに設置促進し、面的拡大している点は評価できる。 ・観光ボランティアガイド活動では、金曜日・土曜日・日曜日にJR広島駅で、市民ボランティアによる英語での道案内、観光スポット紹介をしており、372人がボランティア登録しているのは評価できる。
<p>本市に 反映できること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーWi-Fiの民間通信事業者と連携した面的拡大、市民ボランティアによる英語での道案内等は、ラグビーワールドカップ2019に向けた準備の参考となる。 ・近隣市だけではなく、県をまたいでの広域連携による観光取組は参考となる。
<p>その他 (意見・課題など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前から豊田スタジアムまでの間は、建物に入っても外に出ても、フリーWi-Fiがつながるよう官・民連携して促進する必要がある。 ・本市だけでは滞在時間が短くなるため、西三河圏、三河圏の観光地というように、近隣市が一致団結して推進する必要がある。 ・ラグビーワールドカップ2019を見据え、通訳などのボランティア活動を充実させる取組が必要である。



視察報告書【3】

委員会名	産業建設委員会	委員名	板垣 清志
視察日時	平成28年7月22日(金) 午前9時30分 ~ 午前11時30分		
視察先・概要	兵庫県 姫路市 人口:534,605人(H28.4.1現在) 面積:534.34 km ²		
視察内容	【 姫路駅北駅前広場の整備と管理活用 】		
選定理由	<p>姫路市は、姫路駅周辺でキャストィ21計画や姫路市都心部まちづくり構想などに基づき、姫路駅から姫路城に至る都心部の基盤整備やにぎわいづくりに取り組んでいる。また、「城を望み、時を感じ人が交流するおもてなし広場」というデザインコンセプトのもと、市民や事業者、関係機関などと連携しながら、魅力あるまちづくりを進めている。この取組は、今後の本市において参考になると判断したため。</p>		
豊田市の現状と課題	<p>本市は、都心環境計画に基づき、「森と矢作川に育まれた 祝祭・交流空間の創造」を目指し、にぎわい交流拠点の創出・交通拠点の形成・情報拠点の創出に取り組む。多様な取組の推進については、リニア中央新幹線の開業を概ねの目標とし、ラグビーワールドカップ開催を1つの節目として、随時評価・見直しをしながら、継続的に実施していく。今後の都心のにぎわい創出に向け、先進的な自治体の取組を調査・研究する必要がある。</p>		
視察概要	<p>1 北駅前広場の整備の概要</p> <p>1) 姫路駅周辺整備事業(平成元年から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山陽本線等連続立体交差事業 ・関連道路事業 ・姫路駅周辺土地区画整理事業 <p>2) 都心部まちづくり構想における整備の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントランスゾーン(2.6ha):交通結節点機能、水と緑の広場、展望台、飲食店等地場産品店、イベントスペース等 ・コアゾーン(3.3ha):都市型ホテル、商業施設、シネマコンプレックス、高等教育機関、医療・健康施設等 ・イベントゾーン(6.6ha):交流機能、市民活動充実に資する創造活動支援機能、観光支援、憩いとうるおいの機能等 <p>2 にぎわい創出のための取組</p> <p>「姫路駅北にぎわい交流広場」条例の施行</p> <p>1) 姫路駅北にぎわい交流広場のイベント活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央地下通路(165 m²) ・キャッスルガーデン北広場ステージA・B(60 m²・130 m²) ・キャッスルガーデンステージ(105 m²) <p>多種多様な利用が可能、中央地下通路は雨天の心配なく開催可能であり、利便性の高いスペースである。</p> <p>3 取組の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわい交流広場では、年間約230のイベントが開催され、 		

	<p>にぎわいが創出されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫路城への入城者が年間 286 万人となり大幅に増加。外国人客の入城者も 30 万人を超えた。 ・歩行者の交通量の増加、JR 姫路駅乗車客数の増加 <p>4 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北駅前未整備部分の整備 ・南駅前広場の再整備 <p>5 現地視察</p>
<p>評価とその理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部まちづくり構想における整備の基本的な方向を、都市の顔としてのエントランスゾーン、集客力を強化するコアゾーン、市民の交流と創造のうるおいの場となるイベントゾーンに分けて整備している点は評価できる。 ・北駅前のにぎわい交流広場では、年間約 230 のイベントが開催され、中心市街地のにぎわいづくりに繋がっている点は評価できる。
<p>本市に 反映できること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路駅北駅前から 50 メートル幅の道路がまっすぐ整備され、その先に姫路城が見えるという、景観を意識したまちづくりがされている点は参考になる。 ・駅の下に道路が通っていないと、駅の両側のまちが分断されてしまう問題が起きるが、姫路市は駅の周辺に環状線を通すことで解消し、駅の両側を一体的に整備できている点は参考になる。 ・特徴的だったのがトランジットモールの整備で、車利用者には不便を感じる一面があるものの、中心市街地付近に駐車し歩くことになるので、中心市街地に滞留、回遊が生まれ活性化につながる感じた。
<p>その他 (意見・課題など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路駅からの景観を本市に置き換えると、姫路城に代わるものが豊田スタジアムである。イベントがない時でも豊田スタジアムに足を運ぼうと思えるような整備が必要である。 ・駅前のメインの通りは人が回遊しやすいが、そのほかの通りも一体的に回遊させるために、歩行者に視点を移した仕組みづくりが必要である。 ・本市も駅前整備によりイベント広場が設けられるので、にぎわい創出につながるよう文化団体等と連携していく必要がある。 ・トランジットモールは、いろいろな目的で集まる駅前の混雑を整理できるかもしれないが、利便性との兼ね合いが難しい。本市の駅の利用は、圧倒的に市民が多いので、市民が利用しやすいことが大切だと感じた。

